中小企業170社、6月27日面接会

大阪・南港インテックス大阪

厚生労働省は6月27日、大阪・南港のインテックス大阪１号館（大阪市住之江区）で近畿ブロック大学等就職フェア2014を開く。就職フェアには、製造業やＩＴ、サービス業など企業170社が集結する。大阪新卒応援ハローワークでは、16日から26日を集中ウィークとして直前対策を実施。好感の持てる話し方や立ち居振る舞いを実践して習得するセミナーを開く予定で、参加を呼び掛けている。

話し方好感度アップ　直前セミナーも

大阪新卒応援ハローワークで連日、開催しているレギュラーマッチングブース面接会。企業の採用担当者の生の声を参考に企業選びができると好評だ。昨年、ブースを利用し180人が就職。多くの若者が社会人として活躍している＝３面に関連記事。

厚生労働と文部科学両省によると、今春卒業した大学生就職率（平成26年4月1日現在）は94・4％と前年同期比で0.5ポイント上昇した。過去最低だった平成23年の91・0％から3年連続で上昇した。

男女別では男子が93・8％、女子が95・2％と男子を上回った。文系は94・0％、理系は96・4％だった。近畿地区は93・8％と前年同期比0.6ポイント上昇した。就職を希望しながら未内定の学生は2万3千人いるとみられ、厚労省は6月末までをめどに集中支援期間として一日でも早い就職実現を支援する。

フェアは正午からオープニングセミナーがスタート。日本一明るい経済新聞の竹原信夫編集長が「採用・不採用はここで決まる～人事のプロが明かす生情報～」と題し講演する。年間500人の中小企業経営者に取材した経験を基に企業が求める人材像を話す。

フェアの対象者は来春卒業予定の大学（院）、短大、高等専門学校、専修学校等の学生と卒業後3年以内の既卒者（外国人留学生含む）。履歴書は不要で当日、応募票を配布する。

正社員を募集する企業と直接面接できるほか、就職活動なんでも相談として会場内にブースを設け、ハローワーク職員が企業選びのポイントや、面接の心構えなどをアドバイスする。留学生向けのガイダンスや相談コーナーもある。

参加企業は製造業からIT、建設業など多彩で、事務職や営業、販売職などがある。外国人留学生を対象にした企業は20社が参加する。

大阪新卒応援ハローワークでは、27日のフェアに先立ち直前対策セミナーを開く。

23日は笑顔の作り方や腹式呼吸などを学ぶ「話し方好感度UP講座」を実施する。呼吸法や滑舌を良くするトレーニングのほか、企業への応募や面接日時の変更で正しい敬語が使えるか、電話でのロールプレーイングで学ぶ。

25日は「実践☆面接TIP」。今回はフェアでのブース面接を想定し、採用担当者の話を聞く姿をビデオ撮り。座り方や表情をチェックするほか、お辞儀など身だしなみもビデオで振り返る。参加には事前の予約が必要。

学ハロ大阪新聞

発行所
厚生労働省　大阪労働局
大阪新卒応援ハローワーク
〒530-0017
大阪市北区角田町8-47
阪急グランドビル18階
TEL　06-7709-9455
FAX　06-7709-9458
http://osaka-young.jsite.mhlw.go.jp

第8号

2014年6月16日

大阪新卒応援ハローワーク

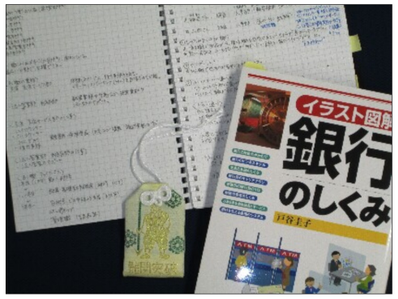
2 大阪わかハロ就活クラブ活動本格化
3 RMBで就職した若手社員は今

近畿ブロック大学等就職フェア2014

強い気持ちと上昇志向でメガバンクに

近畿大学経営学部　４回生　女性

「私は常に上を目指す気持ちで仕事がしたい」。エントリーシートが通らずに低空飛行が続く日も、あえて胸を張って歩いた。折れない葦のような気持ちの強さがメガバンクの扉を開けた。自分の弱さに負けたくない。そんな思いで乗り越えた就職活動は自分のプライドとの戦いでもあった。



祖母からもらったお守りに感謝も

わたしの就職活動日記　8

◆就職活動はいつから始めたのか。

昨年12月から。空港会社や航空、ブライダルや化粧品会社が志望だった。金融は、母が銀行に勤めており身近な職業だった。学内で金融業界研究会があり、メガバンクや地方銀行のブースがあった。

◆そこで聞いた銀行業務の話で志望度が上がったか。

確かに。でも他社を含めエントリーシートが全く通過しなくて。空港会社は第一志望だったので説明会にも出かけた。飛行機や空港の雰囲気が好きで応募したが、結果は書類で不採用。結構、ショックだった。あー、ダメなんだ、と。今振り返れば、当然ですよ。会社で何がしたいのか、伝えられなかった。実現したいことや志望動機が全く書けていなかったから。友人は面接に進むし、悔しくて、さすがに反省した。

◆どう意識を変えたのか。

自分でどう答えるか常にノートに書いた。模擬面接やグループディスカッションでも私に関する様々な評価があった。それをしっかり受け止め、書く作業を通じて自分を把握できたと思う。

◆なぜうちの銀行でこの仕事をしたいのか、とよく聞かれるがどう答えたのか。

3月の会社説明会でマネーライフコンサルタントの仕事を知った。志望動機は「一般職から管理職を目指せるから」だ。これは最終面接まで一貫して言ってきた。窓口業務の仕事はもちろんだが、もっと上を目指したい思いが常にある。一人一人の資産状況を把握し自分でお客様にあった答えを見つける。自分で勉強したものを提供できる仕事にやりがいを感じた。

◆会社を選ぶ決め手は何か。

やはり会社説明会を通じて社風や行員の雰囲気をしっかり感じ取れるかが大事だと思った。自分にあう雰囲気かどうか、必ず分かる。例えば説明会でのグループワーク。銀行はどんな仕事か、意見を出し合い考えるのだが、担当の女性行員が私と同じ目線で自然に寄り添ってくれるような感じだった。また女性の人事の方の言葉が大きかった。社員数が少ないのに個人リテールが強いのは窓口でしっかり対応しているからだ、と。物腰や雰囲気は柔らかいのに、仕事や会社について語り出すと熱くなる。現状に満足せず、絶えず上昇志向を持っている点は私も同じ。良い意味でのプライドがあり、私もここで働きたいと本気で思った。仕事に対する熱い思いが伝わる会社だ、と。だから面接では、私も上を目指す環境で仕事をやりたいと言った。負けん気も強く上昇志向で頑固が取り柄。気持ちの強さを伝えた。

ＪＳの意見、素直に受け止め

私は一つのことにしか集中できないタイプ。だから金融に絞った。大阪新卒応援ハローワークは姉が教えてくれた。履歴書は一つの問いをじっくり考えた。ＪＳ（ジョブサポーター）などさまざまな人の意見を聞き、多様な視点で自分を見つめ直したのがよかったのかも。周りからはよく「あんたは第一印象はいいのに話が支離滅裂や」と言われる。だからこそ、問いを見つけて自分でどう答えるか常にノートに書いた。模擬面接やグループディスカッションでも私に関する様々な評価があった。それをしっかり受け止め、書く作業を通じて自分を把握できたと思う。

◆なぜうちの銀行でこの仕事をしたいのか、とよく聞かれるがどう答えたのか。

3月の会社説明会でマネーライフコンサルタントの仕事を知った。志望動機は「一般職から管理職を目指せるから」だ。これは最終面接まで一貫して言ってきた。窓口業務の仕事はもちろんだが、もっと上を目指したい思いが常にある。一人一人の資産状況を把握し自分でお客様にあった答えを見つける。自分で勉強したものを提供できる仕事にやりがいを感じた。

◆会社を選ぶ決め手は何か。

やはり会社説明会を通じて社風や行員の雰囲気をしっかり感じ取れるかが大事だと思った。自分にあう雰囲気かどうか、必ず分かる。例えば説明会でのグループワーク。銀行はどんな仕事か、意見を出し合い考えるのだが、担当の女性行員が私と同じ目線で自然に寄り添ってくれるような感じだった。また女性の人事の方の言葉が大きかった。社員数が少ないのに個人リテールが強いのは窓口でしっかり対応しているからだ、と。物腰や雰囲気は柔らかいのに、仕事や会社について語り出すと熱くなる。現状に満足せず、絶えず上昇志向を持っている点は私も同じ。良い意味でのプライドがあり、私もここで働きたいと本気で思った。仕事に対する熱い思いが伝わる会社だ、と。だから面接では、私も上を目指す環境で仕事をやりたいと言った。負けん気も強く上昇志向で頑固が取り柄。気持ちの強さを伝えた。

◆就活中で一番苦しかった時は

3回生の12月から活動して受けた企業は8社だけ。エントリーシートも通らずグループディスカッションもだめ。ずーっと低空飛行だった。初めての面接が4月4日の地銀。その後、2週間ほど面接の機会はなかった。何の予定もない現実。本当に不安だった。これからどうなるのか…。

◆流れを変えるきっかけは。

ある信用金庫の面接が転機となった。履歴書の中身をじっくりと掘り下げる手法で丁寧に自分の良さを引き出してくれ、これまでにない達成感があった。面接官に私のことが分かってもらえても嬉しかった。「私もできるんだ」という自信が生まれた。次も頑張れる、と。すると、また別のカード会社の面接も通過した。一つ通過するとそれが自信になり、その積み重ねがさらに自信を生んだ。内定直前は何か自分に流れが来ている、勢いがある、と実感した。

「仲間と一緒に内定つかんだ」

大阪わかハロ「就活クラブ」活動本格化

大阪わかものハローワークの「わかハロ就活クラブ」が活動を本格化させている。4月のスタートから参加者はすでに3期52人を数え、うち早々に12人が就職を決めた。仲間にぴったりの求人を紹介し合うグループワークや本番さながらの模擬面接、自分の思いを素直に語るプレゼンテーションが人気で、様々な職種の魅力と厳しさについて理解を深めている。参加者は「就職活動は孤独なものだと思い込んでいた。今は正社員として就職するという同じ目標を持つ仲間との交流が楽しい。少しずつでも成長している自分を実感できた」と内定獲得へ意欲を見せている。

グループワークで語り合うメンバー

12人就職、自分の成長を実感

グループワークや模擬面接、好評

「自己PRが苦手。ぜひアドバイスを」「普段ならまだ寝ているが、クラブがあるから早起きできた。今はこのクラブが生活を律している」。就活クラブは参加者の近況報告で始まる。内容は身の回りの出来事から就職活動の悩みまで様々。業界の絞り込みに悩む女性や、寝冷えで体調不良になった男性の話に、時折り笑いも起こる。

クラブは、孤独になりがちな就職活動を集団の力で乗り越える狙い。35歳未満の若者が同世代の仲間と一緒に就職を目指す。プログラムは全6日間で1日5時間、2週間実施される。グループワークをメーンに、普段はなかなか話せない悩みや課題を一緒に考え、仕事内容の深堀りや履歴書の書き方、自己PRのプレゼンテーションなど基本的な就活スキルを短期間で全て学ぶ。5月の第2期生には今春、大学を卒業したての22歳から職務経験のある31歳まで18人（男性10人、女性8人）が参加した。

職業理解を深める講座では、営業事務の視点から卸売会社の仕組みを実務経験のあるスタッフが説明。「数字を大量に扱う点が一般事務職とは違う。営業担当者のスケジュール管理から在庫のチェック、納期の回答、入金の確認まで業務はあれやこれやと忙しい」と解説しスピードや正確性、電話応対でのコミュニケーション能力の大切さを強調した。

メンバー同士がそれぞれに合った求人を紹介し合うワークでは、自分が思いもよらなかった職種が提示され、多くの気づきがあったという。

自己PRのワークでは4人一組となり、これまでに一番頑張った出来事や、仕事のやりがいについて話し合った。希望職種についてのプレゼンテーションでは、福祉業界を目指す女性が「利用者やご家族の気持ちを大切に仕事に励みます。足りないところは実際の仕事を通じて学びます」と仕事にかける熱い想いを、参加者全員に伝えた。

集団と個別の模擬面接では、全員がスーツ姿で参加し、緊張した面持ちで志望動機や自己PRを語った。ロールプレイでは、企業の面接官役も経験。応募者に質問を投げかけ企業側の視点を学んだ。参加した男性は「採用担当者はこんな視点で応募者を見ていたのか。十分準備しないと簡単に見透かされるのが実感できた」と振り返った。

25歳の女性は「これまでは職種について考えたり、自分の意見を主張するのは苦手だった。仲間づくりも得意ではなく、まさか就職活動の話ができる仲間と出会えるとは思っていなかった。同じ目標を共有できる仲間の存在は大きい」と話す。クラブ参加後、商品出荷の事務職に採用された28歳の女性は「自己PR書が面接官の目に留まり、面接では内容が面白いのでもっと聞かせて欲しいと言われた。質問の答えを準備し、志望動機などをより広げ、明るくはきはき話したことが決め手ではないか」と笑顔で振り返った。

就活クラブは、6回の講座全てに出席し、グループワークに積極的に参加できることが条件。申し込みは大阪わかものハローワーク受付または電話で。

「上場企業にこだわり60社以上に応募したが、内定はゼロ。もう手持ち企業もない。どうすればいいのか」との声を相談窓口でよく聞く。そんな若者にお勧めしたいのが大阪新卒応援ハローワークのレギュラーマッチングブース（RMB）面接会だ。独自の技術力で高い市場シェアを誇る中堅企業や若者を育てたい中小企業が連日、面接会を開いている。そのRMBを利用し就職した若手社員の仕事ぶりを訪ねた。

RMBで就職した若手社員は今

仕事選び 幅広い業種に目を

「お客様にはいつも笑顔を心掛けている」。大阪市西区の王子食品大阪支店。入社1年目、24歳女性はサプリメントなど健康補助食品や化粧品を扱う初の女性営業担当だ＝写真左上。薬局や通販会社など5、6件の担当を持つ。「仕事を教えてくれた先輩が九州支店に異動する。これからが本当の意味での独り立ち」と決意を込める。

ネックは新規開拓だ。電話でアポイントメントを取るが、すぐに成約、とはいかない。

「最初は落ち込んでいたが、気持ちを切り替え電話している。今ではもう慣れました」。上司の支店長も「採用の段階から積極性があった。気持ちも強く、職場の雰囲気も明るくなった」と目を細める。

目標は、自分がスタートから商品化までしっかりと携わり顧客をサポートすることだ。「商品の多くは女性がターゲット。一人しかいない女性営業担当の視点を生かしたい」。

就活に悩む学生には「企業選びは人だと思う。給与やブランドではなく働きやすい人間関係が築けるか。そこを見分ける力を付けて欲しい」とエールを送る。

守口市の建設機械レンタルの奥村機械。総務担当の24歳女性は、給与計算や作業服を手配する備品管理、会社説明会の準備など幅広くこなす。

尋ねやすい社風が魅力

働きやすい人間関係が大切

「最初は基本的なことを間違いなく、早くできることを意識したが、今では業務の効率化を図るなど自ら考え、仕事に取り組んでいる」。

就活は4回生の時、内定をもらいながら留年したため、2回経験することに。1回目は職種も絞らず説明会やOB訪問を繰り返した。「早く終えたいとの思いが強く、今から思えば内定先も本当に自分のやりたい仕事だったのか」。2回目は開き直り、時間がかかっても自分が納得できるまで就活しようと事務職に絞る。

今の会社に決めた理由は、社員の人柄を含めた職場の雰囲気の良さだ。「先輩はどんな些細なことでもしっかり教えてくれる。尋ねやすい雰囲気で後輩を育てようという意識を感じた。2回の就活で得たことは企業から選んでもらうのではなく、自分が企業を選ぶ目を持つことの大切さだ」。

営業企画グループの24歳女性は納品書の発行や修理の手配など、様々な情報が集まる部署で働く。扱う建設機械も多種多様で、各営業所とのやり取りも多い。「事務職は、じっとPCや電話と向かい合うというイメージをもっていたが、臨機応変な対応力と、なによりもコミュニケーションが大切な仕事」と言い切る。

忙しさにもやりがい感じ

内定は卒業直前の2月だった。興味ある業界を見てきたが、志望動機がうまく言えず応募した30社の多くは1次試験で落ちた。学業に専念する時期もあり、本格的に再開したのは年明け。事務職に絞り、大阪新卒応援ハローワークのレギュラーマッチングブースに参加したのが、今の会社との出会いだ。会社説明会では担当者が非常に柔らかい印象で、会社の雰囲気が伝わってきた。

「工事現場で使用する鉄板の手配が私の担当で、調整力が試される仕事だ。責任感を感じるが、もっと知識を吸収してこれからも自分でないとできない仕事をやりたい」。

紙面をリニューアル

今号から「学ハロ大阪新聞」は紙面をリニューアルしました。就職活動をしている皆さまのお役に立てるよう、今後もより読みやすい紙面構成を考えて参りますので、よろしくお願いします。「学ハロ大阪新聞」へのご意見、ご感想をお待ちしております。ジョブサポーターまでお寄せください。（担当　田中健吾）